

## 「合格可能性」

志望校判定は学カテストの受験生の入試本番の結果を集めて、基準を設定しています。今日の合格可能性は〇%という数値と、それに対応した黒い線のグラフで表示しています。

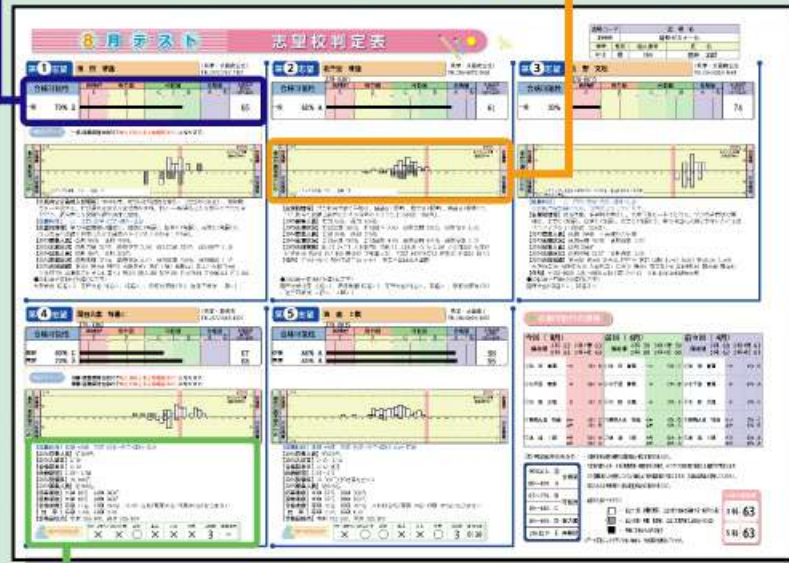
### 4段階の目安

- ・合格圏は過去の受験生の結果から見るとほぼ合格できるラインです。
- ・可能圏は合格する可能性が不合格より高いラインです。
- ・努力圏は不合格になるかもしれないが受験すればチャンスはある。ただし、可能圏以上の学校も併願する必要があるというラインです。
- ・再検討は合格するのは難しいと思えるラインです。

## 「合格者と不合格者の分布」

昨年の学カテストの受験生の入試結果です。真ん中の線から上が合格、下が不合格者の割合です。

赤いマーカーが今回のあなたの成績なので、現在の位置を一目で確認することができます。



# 学カテストについて

学校の定期テストでは80~90点をとれるのに、学カテストでは平均点をとるのも大変！というお話をよく聞きます。

定期テストは教科担当の先生が受け持ちの生徒の理解度を測ることを目的に作成しているので、授業をしっかり受けていれば一般的には高得点をとることができます。

それなのに、わざわざ難しい学カテストを受ける意味はどこにあるのでしょうか？



## 学カテストを受験すると...

塾での計画的学習で培った学力を、毎月の学カテストで理解度・到達度を分析し、さらに全国レベルで学力診断を行うことができます。



学カテストは単発型のイベント的な模試ではなく、吟味された良問から「評価教材」として年間の指導計画の中で活用しています。

目標をもって取り組んだ学習の結果を客観的に分析・評価して、更にはできなかった問題に取り組みればより定着できるようになります。

また、学力診断テストとしては最大規模の母集団なので、全国で同学年の生徒がほぼ同時期に受験しています。

現在は、中学生はそのほとんどが高校受験を経験し、高校生の半数が大学へ進学する時代になりました。

大学入試が全国区で行われる以上、学カテストも地方区ではなく全国区のスタンダード版で定期的に行われるのが望ましいと言えるでしょう。



受験前の詰め込みだけで目標校に合格することもあります。日常の学習の蓄積の上に成り立つ真の学力が、ブレない「実力」です。

この「実力」を測定し、伸ばしていける学力診断テストを受験してみましょう！



## 「入試情報・学校情報」

1行目は試験科目になります。以降は毎月最先順位を更新して新しい情報に切り替わっていきます。

- 公立高校  
過去2年分の志願状況  
大学合格実績  
入試日程  
志望校情報  
併願校実績 など

- 私立高校・国立高校・高等専門学校  
スクールミニガイド  
直近の入試結果  
大学合格実績  
募集要項  
学校行事・学校説明会開催情報  
学費 など

## 志望校判定表を上手く活用するには...

学校の合格基準差は、入試の結果から合否ボーダーラインを想定したもので、実際の入学者層とは異なることがあります。

判定精度は倍率が1.2倍から1.4倍程度の入試に最も適合しますが、例え全員合格するような入試状況であれば、足切りをされない限り「再検討」でも合格することがあります。

逆に倍率が2倍を超えるような状況では、合格圏から可能圏まで同じように合格者・不合格者が分布することもあります。

受検校を決める前に入試状況も確認してみてください。

また、学カテストを使って受検校を絞り込む時に注意しなければならないのは、中3になってから複数回テストを受験して、同じような結果が出ているかということです。特に受験学年になったら、定期的にテストを受験して安定した判定かどうかの確認をしてみてください。受験学年の前半だけの結果や単発的な受験では、確実な判定とは書けません。

志望校判定表には学校情報も掲載です！気になる学校は直接訪問して、納得してから入試に臨みましょう！